

浄心寺だより

発行
浄心寺門信徒会

郵便番号 714-0081
笠岡市笠岡 2065
電話 (0865) 62-2623
FAX (0865) 62-2595
振替 01260-9-13760
<http://joshinji.suki-ari.net/>



「み法を味わって」(天)

「いのちめぐまれて だいちど」

私が人間に生まれたことは、私が望んだのでも、努力して獲得したものではありません。しかし、気づかせていただく、この上なく尊い、有り難い、大切なことが得られたのですから、恵まれた生命いのちとしか言いようがありません。

その私の人生は、止まることも、後もどりや、やりなおしもできません。ただ一度だけです。だからそのうちにはなく今こそ、誰かがではなく、私こそが仏法を聞かねばなりません。仏法の真実を聞き、真実に近づき、真実になりきる人生を送るときこそ、人間に生まれてきてよかったという人生になり、これこそ恵まれた、たった一度の生命を大切に過ごすことになるであります。

鷹谷俊昭著 『月ごとのことば』 転載

十二月五日(土) 十三時半より

報 恩 講

ご法話 福山市内海町

善正寺 那須英信師

ごあんない

※毎年仏教婦人会の皆様様に調製いただいているお齋ですが、今年はコロナ禍のため、なしとします。

秋季彼岸会・永代経法要つとまる



のことで、あみだ様におまかせしておけばどんな人生を歩もうと、どんな最期を迎えようと、かならず仏さまの世界に生まれさせていただける、という教えです。

私たちの日常は何をするにも「条件付き」です。そこへ「無条件で」といわれると身構えてしまいますが、いくつになっても「今は仏さまにはなりたくない」と背中を向けている私たちに、往生の条件など付けられるはずもなく、むしろそんな私たちを残らず救いたいと願ってくださっているのがあみだ様です。

九月二十三日(水)午後一時半より、さわやかな秋晴れの中、秋季彼岸会および門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。一同で阿弥陀経をお勤めしたのち、ご法話を拝聴。ご講師は福山市山手町、正圓寺住職の石川知全師でした。コロナ対策で参加者はマスク、先生はフェイスガード着用での法座となりました。

「浄土真宗は無条件の救いを説きます」ということを中心にお話しされました。「他力の救い」とも言いますが、「他」とは阿弥陀如来

お彼岸はインドにも中国にもない日本独自の風習です。いろいろな恵みをくれる太陽に感謝して手を合わせる、という日本古来の思想が表れているのではないのでしょうか。太陽は必ず東から昇って西に沈みますが、それは命は生まれれば必ず死ぬ、ということに通じるものがあります。しかし人間死んで終わりではない、また会える世界がある、というのが私たちの教えです。浄土真宗は、生きている「今」にはたらく教えであります。



当山の法宝物虫干し法座が七月十六日一時半よりつとまりました。直前には九州の豪雨もあって被害が出たりなど、各地で大雨に見舞われましたが、当地では二日ほど前から好天に恵まれ、何とか虫干しができました。

新型コロナウイルスが収束しなかったかと思う間もなく、また感染拡大か、という中での法座ということもあり、一同マスクをして座席も間隔をあけてのお聴聞となりました。法要では『讚仏偈』をお勤めの後、住職が「中国真宗念仏行者御形見名号略縁起」を拝読。これは、当日開陳された法物にまつわるいわれが記された文書です。

ご法話は福山市御幸町の光圓寺、平山智正先生でした。

まず最初に親鸞聖人の著された「十万微塵世界の、念仏の衆生をみそなわし、撰取して捨てざれば、阿弥陀と名づけたてまつる」というご和讃を拝読され、やさしく解説くださいました。

例年ほどの暑さもなく、さわやかな中での久々のお聴聞でした。

「わたしたちのちかい」

これまで「浄土真宗の生活信条」として信仰生活の心構えが示されていますが、平成三十年に専如新門主が新たな四か条を示されました。

別刷りでお届けしますので、ご家庭で目に付く場所に掲示するなどご活用ください。

やさしい仏教講座 令和3年の予定

第8回	2月3日(水)
第9回	4月7日(水)
第10回	6月10日(木)
第11回	8月21日(土)
第12回	10月12日(火)
第13回	12月14日(火)

門信徒の広場

十二月の 地区委員会について

十二月五日に開催予定の地区委員会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、会合を中止とし、資料を配布して開催に代えさせていただきます。ご意見等あれば浄心寺まで直接お知らせいただきます。

仏婦清掃奉仕 9月13日

婦人会三十四名の参加があり、本堂や境内の清掃をしました。



教区清掃奉仕 9月11日

福山の備後教堂にて清掃奉仕があり、当寺からは榊平敬子さんと坊守の二名が参加しました。いつもは他寺からの参加も多いのですが、コロナ禍でお一人だけでした。清掃に励んだ後には常例法座があり、ご法話を拝聴しました。

還浄(げんじょう) (敬称略)

平田 崇幸	6 上旬	71	金浦
藤井 啓江	6・16	87	生江浜
内海佳代子	6・23	58	宮地

北村 義満	6・23	73	生江浜
戸田 陽子	6・29	94	東本町
小田 明	7・4	86	樋守
田片 和恵	7・5	86	金光町
亀岡 湛子	7・6	85	小坂東
西山 満雄	7・21	93	横島
多田羅ヨイ	7・25	92	寄島町
鈴鹿 住子	8・7	79	交野市
佐藤 麗子	8・10	91	福山市
寺脇 廣二	8・10	79	旭が丘
砂田 進	8・25	81	金浦
仁科 信吾	8・26	81	新横島
小林 信子	9・21	86	金光町
亀岡美智子	9・29	89	小坂東
山中美代子	10・4	91	川辺屋

やさしい 仏教講座

第6回 10月4日



今号から、「やさしい仏教講座」でお話しした内容をまとめて、紙面に掲載することとなりました。ご参加いただけなかったみなさんにも、紙面を通じて学んでいただければと思います。

『食べること出すこと』

八月下旬に安倍首相が辞意を表明し、菅氏が新首相となりました。その辞任の原因となったのが安倍氏の持病、潰瘍性大腸炎です。その同じ病気にかかった頭木弘樹さ

んの闘病記を紹介しました。書評では「著者は、闘病を通じ、凶らずも持ち合わせるようになった鋭敏な感覚をもって世の中を見渡し、物事の多様性に目を見開く。そして、人はいろんな事情を抱えて生きていくことに思いを致す。『想像が及ばないことがあるだろう』という理解の大切さ。本書は、他人を思いやる行為が独りよがりなものになってはいないかと問いかけてくる」とあります。また別のインタビュー記事では「何でも『こうだ』と決めつけず、『何か事情があるのかもしれない』という『ためらい』を持つてほしい。立

『あみださまとおしゃかさま』
お釈迦さまは仏教の開祖でインドに実在した人物です。そのお釈迦さまは聴く人の性格や能力にあわせて多くの説法をされましたが、その中の一つが浄土真宗の所依の經典『仏説無量寿経』に説かれる教えです。そのお経の中に出てくる仏さまが阿弥陀如来(あみださま)なのです。ですから、あみださまはお釈迦さまの説かれた教えの中に出てくる仏さまであって、

『お仏壇でお参りする手順』
浄土真宗での正式な作法を文章にしたものを読みながら確認しました。お仏壇で手を合わせるときにはお祈りをしたり願い事をしたりするのはなく、「おかげさまで」という気持ちで合掌しましよ

2021年 年回表

年回忌	往生年
1周忌	令和2年
3回忌	平成31年 令和元年
7回忌	平成27年
13回忌	平成21年
17回忌	平成17年
25回忌	平成9年
33回忌	平成元年
50回忌	昭和47年

該当のお方には別途お知らせいたしますが、遺漏するごこともありますので、ご留意、ご確認の上、ご法要の日を早めにご相談ください。

浄土真宗



教えと
そのあゆみ



私たちの宗門(7)

聖教(4)

浄土真宗の開祖は親鸞聖人であることは申すまでもありません。そこで親鸞聖人のあらわされたご著作を順にみてゆきましょう。

浄土真宗を説き明かした本

『顕浄土真実教行証文類』六巻

元仁元年(一一二四)聖人五十二歳の頃、常陸の国稲田の草庵において執筆し、以後訂正を加えて、寛仁五年(一一四七)七十五歳のころ完成しました。

これは浄土真宗の綱格をあらわした根本のお聖教ですから、「ご本典」ともいい、また略して『教行』

その内容は教・行・信・証・真・仏土・化身土の六巻で構成されています。

信証』または『教行証文類』と呼ばれています。

私たちの宗派では、このご本典が完成された元仁元年をもって

「立教開宗」の年として、それから起算して教団がつけられたものとしていきます。

●本書の構成

この本は、宗祖がお釈迦さまをはじめ、インド、中国、日本の浄土教の僧たちの著書(経・論・釈)から自分の信心をつちかした部分をぬぎだして、体系的に配列し、自分の信ずる教えの正しいことを確認しようとして著されたものです。

各巻の内容

います。

●各巻の内容

教巻は、浄土真宗は『無量寿経』をよりどころとし、阿弥陀仏の本願によって教われる教えである。その本願力のはたらきには往相(おうそう)と還相(げんそう)の二種があると説いています。

行巻は、名号(南無阿弥陀仏)の力で仏になれると説いています。

信巻は、名号は人を救うためのものであるが、人はこれを信じなければ救われないことを明らかにしています。

証巻は名号を信ずれば浄土に生まれて仏と同じさとりを得ることができるとを示しています。

真仏土巻は浄土には真実と方便がある。この巻は真実の世界を明らかにしています。

化身土巻は方便の教えより真実の教えを選ぶべきことを明らかにしています。

※わたしたち浄土真宗の門徒が日常の勤行(仏前でのおつとめ)のときに読むのが『正信偈』です。

これはこの『教行信証』第二巻「行巻」の巻末に収録されている七言百二十句の偈(漢文のうた)で、『教行信証』を要約したものといえ、浄土真宗の教えの肝要が示されたものといえます。

「新春のつどい」の中止

毎年一月に開催しているつどいですが、新型コロナウイルス感染症予防のため中止とします。

除夜会・修正会

大晦日二十三時四十分ごろより除夜の鐘を撞きます。引き続き本堂にて、新年のおつとめをします。どうぞお参りください。

ヨガ
しましろう
毎週金曜日
10:30 ~ 11:30

編集後記

放生池に月影の映える頃となりました。七月の虫干し法座、九月の秋季彼岸会・門信徒総追悼永代経法要等々の諸報告、今後の予定としてお取越し報恩講、除夜会・修正会等をご案内する第133号の浄心寺だよりをお届け致します。法座・法要等に参加されお聴聞に遇われます様ご案内します。

(編集委員会 U)